別紙

（中間評価）

世界で活躍できる研究者戦略育成プログラム総合支援事業

（実施期間：令和元～令和５年度）

実施機関：国立研究開発法人科学技術振興機構（総括責任者：濵口　道成）

取組の概要

科学技術・イノベーションの更なる推進に資することを目的とし、「世界で活躍できる研究者戦略育成プログラム総合支援事業」（以下「本事業」という。）においては、各研究機関の代表者や学識経験者等で構成する「研究者育成プログラム開発普及委員会」（以下「開発普及委員会」という）と開発普及委員会委員や支援対象機関他の有識者からなる「プログラム検討ワーキンググループ」を設置するとともに、ＰＤ（プログラム・ディレクター）及びＰＯ（プログラム・オフィサー）を配置し、次の事項に取り組む。

（１） 戦略育成事業を実施する機関（以下「支援対象機関」）の審査・評価・進捗管理
（２） 支援対象機関の知見等の集約・分析、支援対象機関へのフィードバック
（３） 海外の先進事例等に関する情報の収集・分析
（４） 国内外の知見を踏まえた、我が国の研究者育成プログラムの標準モデルや共通メニューの開発
（５） 学会・大学団体等と連携し、各支援対象機関において開発されたプログラムの普及方策の検討

（１）評価結果

総合評価	全体	審査・評価・進捗管理	調査分析
A	b	a	b

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

（２）評価コメント

組織としての経験と実績が豊富であり、ＰＤのリーダーシップのもとで、開発普及委員会、プログラム検討ＷＧの運営をはじめとした各種業務と取組を積極的に行っており、当初の計画に沿って事業運営が行われていることは評価できる。また、新型コロナ感染対策下であり活動に制約があるにも関わらず、オンラインを利用した代替措置を活用するなど、成果最大化に向けた努力が行われていることは評価できる。一方、本事業が育成を目指す人材像について、組織内での共通認識が図られていないように見受けられたため、今後の認識共有に期待する。

・全体

当初の計画通り、プログラム開発普及委員会及びプログラム検討ＷＧを設置し、ＰＤ・ＰＯを適切に任命し、円滑に遂行されていることは評価できる。一方で、選定時のコメントにあった「定量的な目標」の設定が不十分であるため、人材育成を行うには短いと言える５年間

の事業期間であったとしても、定量的指標を提示し、目標達成に向けた取組を実施することを期待する。

・審査・評価・進捗管理

支援対象機関の評価はこれからではあるが、プログラム開発普及委員会とプログラム検討WGでの諸運営をはじめ、キックオフミーティングやサイトビジットといった手法での支援対象関の進捗管理について評価できる。今後も引き続き、支援対象機関の自律的運営を尊重するとともに、支援対象機関における研究者育成についてどのような成果があったのか等、適切な評価を期待する。

・調査分析

ＣＲＤＳ等や海外事務所等と連携し、さらに英国 vitae も活用した国内外の研究者育成の取組について情報を幅広く収集したことは評価できる。また、標準モデルとしてのフレームワーク【第１版】及び共通メニューとしての研究者育成プログラム【第１版】の企画を進めるとともに、機構初の「研究者のための＋αシリーズ」及び「研究＋αの活動支援プログラム」の試行・検証を開始したことは評価できる。国際ネットワーク拡充は最も重要な取組のひとつであることから、プログラムの妥当性については引き続き検討することを期待する。